

第4表 満月前後の気温変化傾向回数 (1947~1960)

月	急上昇	やや上昇	ほとんど 変化なし	やや下降	急下降
1	2	4	3	3	2
2	2	2	5	2	3
3	6	4	2	1	1
4	6	3	3	1	1
5	2	4	3	2	3
6	2	6	3	1	2
7	0	6	5	3	0
8	0	5	2	5	2
9	3	4	2	3	2
10	4	4	2	3	1
11	3	5	3	2	1
12	2	1	6	2	3
全年	32	48	39	28	21

なお同期間中で、毎日の平均気圧の前日に対する変化量別回数は次のとおりである。つまり

	平均気圧 5 mb以上上昇	5 mb 未 満上昇	5 mb 未 満下降	5 mb 以 上下降
日数	860	2164	1921	517

満月前後の気圧の昇降は他の日とあまり異ならないものとみられよう。

4. むすび

1. 宮崎においては平均気温、最高気温、最低気温のいずれも月齢によると思われる顕著な変化は認められない。すなわち望前後で気温が急降するという現象は宮崎では統計的には現われていない。

2. 宮崎においても藤原、大谷先生らの認められたような月齢別の気圧変化があるように認められる。望前後ではやや上昇きみである。

しかし各月別の変化は不規則であるから、また天気予報上の参考となりうる程度ではない。

3. 今回の統計は1947~1960年の短期間のものであった。これをさらに長い期間について行なうとあるいはさらに有益な結果が出るかもしれない。

参考文献

- 1) 間野浩 (1931): 満月の天気について, 気象集誌 9巻2号, 68~78.
- 2) 安井豊 (1962): 宮崎における夜間雲量の観測値について 天気 9, 59~61.
- 3) 伊集院久吉 (1956): 満月と気温との関係について 研究時報 8, 307~312.
- 4) 藤原咲平等 (1930・1931): 月の気圧に及ぼす影響, 気象集誌 2輯 8巻, 221~231, 419~424, 2輯 9巻, 125~128.

国際電波科学連合 (URSI) 第14回総会

国際電波科学連合 (URSI) 第14回総会の中、気象に関係ある部分については、本誌の本年2月号にその概要を記しておいたが、その後若干の変更があったので、ここに再び記しておきたい。

第1セッション (9月10日午後) 対流圏モデル (変更なし)

第2セッション (9月11日午後) 電波気候学

1, 2, 変更なし

3, 海上および島との連絡の場合の電波気候的影響: スピーカーは池上文夫博士 (通研) にきまった。

第3セッション (9月13日午前) 伝播に対する土地起伏および植物生育の影響 (旧第5セッションの内容そのまま)

第4セッション (9月13日午後) 宇宙通信に影響をおよぼ

す対流圏伝播の諸問題 (変更なし)

第5セッション (9月16日午前) 気象レーダーと雲物理

1. レーダーによる気象研究と雲物理: アトラス博士 (米国)

2. 日本のレーダー気象と雲物理: 今井一郎博士および内藤恵吉博士 (ともに気象研)

3. パークレーでの電波気象学シンポジウム: マーンヤル博士 (カナダ)

第6セッション (9月17日午後) guided waves (変更なし)

第7セッション (9月18日午前) 題目なし (時刻だけ変更になった)

(島山久尚)